

目次	写真館	433
	地衣真似虫2例 / 安齊 唯夫	433
	トラローブにウメノキゴケ・マツゲゴケが着生 / 川名 興	435

### 写真館 *Photo Gallery*

#### 地衣真似虫2例

*A long-horned beetle and a spider mimicking lichens/ by ANZAI Tadao*

>>> 安齊 唯夫

#### 1. コケオニグモあるいはキタグニオニグモ *Araneus seminiger* or *A. boreus*?

今夏、地衣仲間3名で入笠山を歩いたときの報告です。

私は未発見の地衣探し、越智さんは地衣染めの材料拾い、小山内さんは地衣撮影と三者三様の目的をいただいていた山歩きです。そろそろ引き返そうか、という時間になり、越智さんが集めた地衣を整理したところ袋の中からオニグモが逃げ出してきました。図1は、蘚苔類の上に放り出され、逃げ回るオニグモです。

背中の斑紋は、孔は開いていないもののセンシゴケの裂片に色調、質感がとても良く似ていて、地衣擬態の虫として見事な出来映えです。集めた地衣染めの材料は、生木に着生している地衣類でなく、落枝に着いていたサルオガセやヤマヒコノリ等を拾い集めたので、このオニグモも多分カラマツの落枝に隠れていたでしょう。



図1. 逃げ回るオニグモ (長野県釜無山, 2012年夏, 越智典子氏撮影)



図2. ヒゲナガゴマフカミキリ（神奈川県丹沢，2012年夏，飯嶋一浩氏撮影）

以前，千葉県下で見つけたコケオニグモにそっくりでした。しかし，図鑑を見比べたり，昆虫に詳しい仲間にお問い合わせたりしていると，コケオニグモに良く似ているキタグニオニグモのようです。とはいっても所詮は写真と記憶での総合合わせです，どちらのオニグモなのか，決着がつきそうにありません。

キタグニオニグモであれば，北海道～本州の高地に生息するとされており，サルオガセの中で見つかる，という話や，図鑑の生態写真の背景にはフクロゴケ属の地衣も写っていることから，入笠山の条件に合致します。キタグニオニグモは長野県では準絶滅危惧，群馬県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。

一方，コケオニグモは千葉県下の里山の杉林で2回目にしたことがありますので，地衣に目がひきつけられる皆さんなら結構平地でもみつかると思います。ち

なみに，コケオニグモは北海道～九州の全国に生息し，千葉県では最重要保護生物A，愛知県では絶滅危惧ⅠB類に指定されています。

両種ともコガネゴモ科オニグモ属のクモ類ですが，とてもきれいなかわいいくもで，見つけると嬉しくなります。

## 2. ヒゲナガゴマフカミキリ

### *Palimna liturata*

私と一緒に，美術館の屋上で苔や地衣類を栽培管理している仲間が提供してくれた地衣擬態の昆虫（カミキリムシ科）（図2）です。

丹沢山地の比較的新しいブナ倒木上で，今夏撮影したそうです。長い触角が目に入らなければ見分けがつかないほど見事な地衣擬態です。背景の地衣はウチキ

ウメノキゴケのように見えますが、どうでしょうか。

図鑑には「背面のまだら模様はブナなどの立枯木に静止したときの隠蔽色と思われる(大林延夫・新里達也編, 2007, 日本産カミキリムシ, 東海大学出版会)」とありますが、この図鑑の生態写真でもウチキウメノキゴ

ケらしき地衣類にしがみついている、相当な地衣愛好虫とお見受けします。

ブナの樹皮に姿を隠していることが多いようですので、ブナの樹皮観察が楽しみになります。

## トラロープにウメノキゴケ・マツゲゴケが着生

*Foliose lichens, Parmotrema tinctorum and Rimelia clavulifera, growing on yellow and black striped, polyethylene ropes/ by KAWANA Takashi*

2012年4月16日、千葉県安房郡鋸南町で、保田川支流にかかる小さな橋のたもとの鉄杭に張られたロープ(図1)に、ウメノキゴケが着生しているのを発見した。鉄杭の高さは約0.5 m、黄色と黒がより合わさったポリエチレン製の、トラロープと呼ばれ

>>> 川名 興

るロープで、長さは約3 mである。同年5月11日にこの橋から約10 mの向かいの道沿い(図2右上)の低木のカキノキの上部にウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum*、人の高さ位にイズカワホリゴケ *Collema leptaleum*・オオカノゴケの仲間



図1. トラロープにウメノキゴケが生える。



図2. 問題のトラロープは小さな橋のたもとに張られていた。

*Pertusaria* sp.が着生していた。念のため同年6月8日にトラロープを確認するとマツゲゴケ *Rimelia clavulifera* も着生していた。

なお、標本は、原田浩氏に同定していただいた。御礼申し上げます。

産地： 千葉県安房郡鋸南町小保田（こぼた）下貫沢（しもぬぎざわ）、標高 50 m / 千葉県メッシュコード（千葉県立中央博物館 1990）=6720/3 次メッシュ=5239-5755)

#### 引用文献

千葉県立中央博物館(編), 1990. 千葉県メッシュマップ.

#### ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

#### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 117, pp. 433-436: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 30 Sept. 2012.

日本地衣学会ニュースレター 117号

発行日：2012年 9月 30日

編集： 原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2012 日本地衣学会 (© 2012 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。